553.43 : 551.73(551.73) : 550.85

京都府千原銅山の概査

原口　九万*

千原銅山は山陰線下夜久野駅の南西約 4 km にあり，同駅から奥千原部落まではトラックを通ずるが，鉱区内は人道が水害によつて破損されている。鉱床は兵庫県氷上郡に近いが，交通運搬は比較的便利である。

本鉱床は露頭探鉱が行なわれたのみで，ほとんど出鉱していない。

鉱区は保井金属株式会社（大阪市）の所有にかゝり，久しく休山している。

下夜久野駅以北は東西方向に延び，北に傾斜する下部三畳紀層が帯状に分布する。

本層からは中沢によつて二枚貝（Claraia）が発見されスキテイック（Skytic）と同定される。

千原谷およびその南方に小規模に粘板岩・砂岩・礫岩からなる千原層が分布し，岩質的には三畳紀層と区別し難いが，上部古生層とされている。走向はほゞ東西，傾斜は北 50° 内外である。

千原層を貫いて塩基性迸入岩類が，山陰線の南部に広く分布し，岩種は多く，斑糲岩・輝緑岩のほか閃緑岩等が見られる。

また千原谷には局部的に石英閃緑岩が迸入している。

下夜久野駅の南側丘陵には石英粗面岩が東西方向 1 km にわたつて岩脈をなし，その一部は陶石化して，窯業原料として盛んに採掘されたことがある。

中千原鉱床と陶石鉱床は母岩の走向・傾斜と同一方向に生成されている。

鉱床は古生層中に迸入した塩基性岩類を母岩とする含銅石英脈である。

尾平谷の上流に旧坑があり，その上位 5 m に露頭がある。旧坑付近に貯鉱約 5 t あるが，これは露頭から採掘したものである（品位 Cu 6 %）。露頭は鏑幅 20 cm の薄脈であるが品位 Cu 10 % の良鉱で，走向 N 30° W，傾斜 NE 75° である。含銅石英脈であるが，方解石を伴つている。銅鉱は黄銅鉱を主とするが，黝銅鉱と孔雀石を伴う。

旧坑は N 60° W の方向に 20 m 掘られ，また引立から 5 m 手前で，4 m 北押しを行なつているが，坑内では着脈していない。露頭下部に着脈するには，さらに北押を行なうべきである。

尾平の山腹に露頭が存在し，前者と約 300 m 隔てている。走向 N 50° W，傾斜 NE 50°，鏑幅 100 cm あるが，この露頭は地表部であるため，走向・傾斜および鏑幅は，下部の探鉱によらなければ確認し難い。鉱脈は中央部の 20 cm は黝銅鉱・孔雀石に富み，銅品位が高いが，部分的に黄銅鉱が散在し，品位は脈の部分によつて異なつている。また黄鉄鉱および石英を伴つている。

この露頭と尾平露頭との関係は不明であるが，この中間部が探鉱上，興味がある。

尾平露頭を超えた反対側の谷間に 1 旧坑が存在する。走向 N 50° E，傾斜 S 50° で，延長 10 m にわたつて掘下つているが，潴水のため坑内状況は不明である。硐をみると含銅石英脈で黄銅鉱を伴つている。

鉱区の北西隅にあたり，中千原部落に旧坑がある。鉱床は上部古生層中にあつて銅品位が低く，黄鉄鉱の多い黄銅鉱石英脈である。走向 N 80° E，傾斜 N 70° であるが，坑道は全く埋没している。終戦前に稼働した鉱夫の言によれば，坑口から 60 m 立入して着脈し，深さ 15 m の立坑があつて，さらに東へ 10 m 鏑押したといわれる。鉱石は硐中のものの見込品位は Cu 3 % である。鉱石の分析結果は次のとおりである。

試料番号	採取箇所	品位 Cu (%)	品位 S (%)
1	尾平露頭	10.54	
2	尾平山腹露頭（良好部）	9.38	
3	〃　（並　鉱）	5.57	
4	中千原旧坑	2.87	36.68

分析：保井金属 K.K.

要するに本鉱床は河守鉱山および中国地方の脊梁部に多く見られる塩基性岩類を母岩とする鉱床と同一のものに属し，銅鉱としては比較的良好なものである。しかし磁硫鉄鉱は伴わない。

本鉱床は露頭および旧坑からみて，銅鉱の品位はやゝ良好であるが，ほとんど探鉱されていないので一応探鉱してみるべきものと思惟する。

* 元所員